



ご挨拶

富士通株式会社 執行役員専務

高網 直良

日本では、ラグビーワールドカップ2019日本大会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）、そして2021年の生涯スポーツの国際総合競技大会と、大規模な国際スポーツイベントが連続して開催予定であり、大会イベントの成功に向け、産官学を挙げての取り組みが活発化しています。

オリンピック・パラリンピックという大会は、世界中の人・情報・インフラが密に交わり、大きなイノベーションを起こす場です。東京1964大会では、私たちの先輩方が今もお色褪せないレガシーを残してくれました。東京2020大会では、私たちが次の世代に何を残していけるのかを考え、行動する番です。このような国際スポーツイベントでは、大会自体の成功のみならず、そのムーブメントを活用し、訪日外国人のおもてなしや地方創生の取り組みに加え、高齢者や障がい者がストレスなく快適に過ごせる環境づくりなどの枠組みをレガシーとして残すことも期待されています。

こうした中、富士通は2015年2月に東京2020スポンサーシッププログラムの国内最高水準に位置付けられる「東京2020ゴールドパートナー」のデータセンターハードウェアパートナーとなりました。東京2020大会では、数多くの情報システムや最先端テクノロジーが大会運営を支えることとなります。それらのシステムは、大会終了後も共通レガシーとしての継続活用が期待されています。富士通はゴールドパートナーとして、データセンターにおいて競技運営に必要なアプリケーション、データを扱うためのサーバやストレージ、サービスを提供し、安全で確実な大会運営の実現に向けて、全力でサポートしてまいります。そして、これらの最新のICTを活用することで、スポーツをする人、みる人、支える人に新たな可能性と感動を提供します。

また、富士通はこうした国際スポーツイベントへの貢献以外にも、バスケットボール、トライアスロン、パラ陸上、パラ水泳、体操競技といった様々な競技へのスポンサーシップのほか、陸上競技部、アメリカンフットボール部、女子バスケットボール部からなる企業スポーツ活動を展開しています。

こうしたスポーツ分野への積極的な取り組みの背景は、スポーツには様々な社会課題を解決し、より良い世の中を作っていく力があるからです。富士通はスポーツの持つ真の力を理解し、お客様・お取引先や地域住民とともに、スポーツを通じた社会のICT化を押し進めていきます。こうして社会的課題を解決していくことは、日本により良い未来への「成長」をもたらし、ひいては富士通自身の新たなビジネス創造と企業価値の向上につながると考えています。富士通は、人を中心としたICTとスポーツを融合させることにより、誰もが豊かで夢のある未来に向けて貢献することを目指してまいります。